

語る魅力の残其波岩

講座企画
図書館
市会
訪著者
に会おう

山田さん夫妻講演



幕末から明治初期にかけて多彩な分野で活躍した諏訪市出身の俳人、岩波其残(1815〜94年)をテーマにした講演会が24日、諏訪市図書館視覚ホールであった。其残研究者で血縁のある山田昭彦さん(68)、貴子さん(63)夫妻

大勢の聴衆が訪れた講演会。岩波其残に対する人気の高まりをうかがわせた

同市豊田が「岩波其残の世界」と題して調査研究の成果を報告し、其残の魅力を語った。

其残は文出村(現諏訪市豊田)出身。高島藩士で俳人の久保島若人に学び、ユーモラスな俳画や卓越した楽焼などで才能を発揮した。医者の愛人だった9歳年下の妻美智と恋に落ち、諏訪を逃れて旅に出る。2人は10年余り諸国を訪ねて俳人と交わり、多くの作品を残す。再び諏訪に戻り、生涯連れ添ったという。

昭彦さんと貴子さんは講師を交代しながら、其残の旅日記「名旧真写」を通して、其残と美智の旅路を紹介。昭彦さんは「其残には三つの眼があった。カメラアイ、透視眼、見えないものを見る眼です」と語り、多くの対象を瞬時に捉えて再現し、記録する其残の力を評価していた。

講演会は、今年度から始まった図書館講座「著者に会おう企画」の2回目。其残が残した俳諧歳時記の復刻版「俳諧探題早合点」江戸・明治を味わう」を記した山田夫妻を招いた。市内を中心に約70人が会場を埋め、其残の足跡を現代によみがえらせた2人の話を熱心に聞き入っていた。

(唐沢宏)